



# 総合教育センターだより

## BE Connected



センターマスコット センタ君

平成25年12月16日(月)  
第57号(通算第140号)  
京都府総合教育センター  
TEL : 075-612-3266

## コミュニケーション能力、チームマネジメント能力を高める



教職員にとって、子ども・保護者・同僚をはじめ地域関係者等と良好なつながりを築くことや、学校組織の一員として課題に対応していくことは極めて大切です。そのような資質能力の向上を図る「コミュニケーション能力」、「チームマネジメント能力」の講座をご活用ください。

### コミュニケーション能力

教職員には一人一人の児童生徒と真正面から向き合い、感情を受け止め、話を聴いたりすることを通して、信頼感を築き上げることが求められます。このような能力は児童生徒だけでなく保護者や同僚に対しても必要なことです。コミュニケーションについて学び、



日々の実践の中で意識することによってコミュニケーション能力を高めることができます。



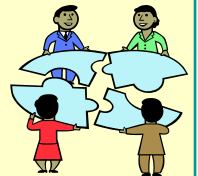
- コミュニケーション講座
- コーチング実践演習講座 等

### チームマネジメント能力

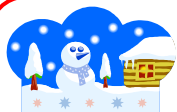
学校組織を活性化するためには教職員の個性を尊重し学校運営への参画意識を高めることが大切です。そして、PDCAサイクルを機能させることにより、学校の教育活動の中身を継続的に改善することができます。チームマネジメントの方法を学ぶことで質の高い



教育活動を生み出すことができます。



- 地域とともに歩む「学校内外環境分析」講座
- チームマネジメント「課題の分析・目標設定」演習講座 等

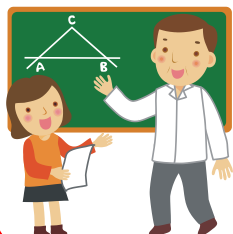


## 教育相談～来所教育相談の現場から～

「むかつく」という感覚的な言葉の代わりに、「めんどくさい」、「無理!」と突き放したかのように言う思春期の子どもたち。そこには子どもたちのどんな思いが隠されているのでしょうか。子どもたちはこうした言葉で、新しい課題を受け止めたり挑戦したりする余裕がなくなっていることを訴えているのかもしれませんが。

子どもたちをほどよく抱え、ほどよく自立に向かわせる養育者のことをイギリスの小児科医・精神分析家ウィニコットは“good enough mother”（ほどよい母親）と表現しました。

「ほどよい」ということは実は大変難しいことですが、教職員が“good enough teacher”として子どもたちにほどよく寄り添い、ほどよく向き合うことが大切です。そのことが子どもたちには自分のありのままを受け入れてもらえる体験につながります。



具体的には、個々の子どもたちが求めている関わりを想像し、自分の心の中にわきあがってくる思いを感じながら子どもたちと会話をすることが効果的です。

つつい、てきばきと話を済ませてしまいがちですが、時には子どもたちの雑談に耳を傾けることで、子どもたちの心に安心感がもたらされるものです。



# 講座報告



## 特別支援教育<発展> 「上級・高等学校の生徒支援」講座 —学習のつまずきに関する理解と支援—

11月15日（金） 総合教育センター

青年期を迎えた発達障害のある子どもの課題を明らかにするとともに、自立と社会参加を見通した支援の在り方について学びました。

**感想** 生徒の発する「めんどくさい」という言葉の裏に、どのような背景があるのかを正確に見極めることが重要だと感じた。HRや教科の授業の姿だけで判断することなく、教員間で情報収集を行い、生徒の全体像を把握しなくてはならない。

また、生徒が「困り」を感じる場面を少しでも減らせるように指示の方法、授業展開、声かけを工夫したい。



## 小学校「授業づくり」講座Ⅲ 11月22日（金） (理科、音楽科、家庭科) 11月25日（月）

総合教育センター

11月26日（火）

児童が主体的に学ぶ授業づくりについて学びました。

**感想** 音楽の「あしあと」としてOPPシートを活用することで、子ども自身が作り上げてきた曲（音楽）についての変容が分かると思った。

### 次年度のお知らせ

平成26年度は、理科・図画工作科・体育科で開講の予定です。次の項目に☑が入る方には是非とも受講をお勧めします。



- ☐ 指導と評価の一体化や、児童の「思考力・判断力・表現力」の伸長、言語活動の効果的な指導などについて学びたい先生
- ☐ 授業の魅力的な導入・展開の工夫、評価場面・評価方法の具体例等について学びたい先生
- ☐ 教科の重点研究担当の先生

## 教育相談<上級>講座Ⅲ —こころと表現をつなぐ心理療法—【領域3】

11月1日（金） 総合教育センター

臨床心理学のエッセンスを使ったカウンセリング・アプローチについて学びました。また、児童生徒の描画や作文等の表現から児童生徒を理解する方法について、事例検討を通して学びました。

**感想** 子どもの見方、接し方等とても参考になった。子どもが何を言いたいのか言葉や態度の裏にある本音の部分に耳を傾けていきたい。



## 学校図書館機能充実講座

11月22日（金） 京都府立図書館

京都府立図書館の機能や「セット貸出」についての理解を深め、図書資料を活用した「調べ学習」について体験的に学びました。

**感想** 「調べ学習」の大切さは感じていたが、今回、実際にどのようにすればよいのかを、体験的に学ぶことができた。大変充実した研修だった。課題の設定、進め方、評価の重要性等、学んだことを生かして校内でも実践していきたい。



## これは使える！

～センター作成物等紹介～

### 中学校「読む力を伸ばす英文教材集」

英語を苦手とする中学生が「自分で英語が読めた！」という達成感を持ちながら、進んで英語学習に取り組める英語教材です。英文教材集と解答版、音声CD、データCDを各校に配付していますので、補習学習や家庭学習

にぜひ活用ください。

センターHPからもダウンロードできます。



## ぶらり歴史散歩

### 由良川

「由良の門を わたる舟人 かぢをたえ ゆくへも知らぬ 恋の道かな」平安時代の丹後国の役人（掾）、曾禰好忠のこの和歌は由良川河口付近を詠んだ昔から親しまれてきた歌です。福井、滋賀との県境、三国山から西へ流れ出た由良川は綾部を過ぎた後、福知山で北へ大きく向きを変え日本海に注ぎます。

綾部の古墳からアユの骨が発掘されたり、綾部の農民の調（税）としてアユの干物を運んだことを示す木簡が平城京から発見されたりしていることから、古来、綾部を流れる由良川はアユの産地として知られていたことがわかります。

